

1、Roofings Group 工場訪問

アフリカにおいては未だ製鉄業、鉄鋼業は経済の中で大きなシェアを占めるには至っていません。その中で、ウガンダには日本の鉄鋼業界の支援を受けた鋼材製造を行う工場があります。筆者は1月にカンパラ郊外のナマンベ工業団地にあるRoofings Groupの工場を訪問しました。

Roofings Groupは現会長のラニ氏(Dr. Sikander Lalani)が一代で立ち上げた鋼材製造グループです。30年以上前に工場を始めたときには、会長の他16人の社員で始めたそうです。現在ではグループ内に3000人を越す社員を雇用する大企業に成長しています。

今回訪問した工場は2013年に稼働したものです。工場設営に際しヨドコウ(当時は淀川製鋼所)の支援を受けました。技術指導のため多くの日本のエンジニアがウガンダに来たとのことです。現在も日本の製造業の精神は受け継がれており職場の安全、品質管理、環境への配慮など「5S」に象徴される精神が生き、配慮が充分行き届いている工場との印象を受けました。さらに、かねてより進めてきた工場拡張整備が完了し、2026年3月に新設備が本格稼働を開始するとのことです。



[生産設備]

現在でも同グループのビジネスモデルは日本のメーカーとの協力を維持しており多くの材料を日本から輸入しています。製品は屋根に使用される鋼材を始めとする建設資材です。塗装にも力を入れています。またさらに別の製品メーカーに材料として鋼材を販売しているとのことです。ウガンダ国内のみならず、近隣のタンザニア、コンゴ(民)、南スーダン、ケニア、ブルンジ、ルワンダにも輸出されています。

東アフリカ地域の経済成長はめざましくウガンダは 7%を超える成長が見込まれています。カンパラ市内はこれまでもお伝えしました通り建設ラッシュです。鉄鋼製品の需要も伸びる事はあっても減少する事はないでしょう。今後このような分野でもビジネスが発展していくことが予想されます。



[切板工程]



[塗装過程]

2、ウガンダの水問題への取組み

SDGsの目標の1つに「安全なトイレと水を世界中に」というものがあります。(目標6) このようなアフリカでの水問題の解決を目指して、多くの日本の関係者が様々な課題に取り組んでいます。

Sunda Technology Global の活動はこのコラムの2024年8月号で紹介させていただきました。

今月筆者は水関連でウガンダに展開する次の2つの活動を現地で見学しました。

(1) 鉦研工業の取組み

鉦研工業はボーリングマシンの設計、製造、販売を行うトップメーカーであるとともに水関連事業のエンジニアリング会社です。同社はアフリカにおいて3000本を超える井戸を掘削するなど水道施設関連の工事で既に実績を積んでいます。ウガンダではウガンダ水・環境省や地域行政、地域住民と協力し電子決済を活用した新たな水供給システムを展開されようとしています。

ウガンダの上水道は村々まで供給されている地域も多いのですが各家庭への配給は施設管理や料金徴収等に課題が多くあり普及が遅れています。鉦研工業はSunda Technology International などとも協業しカードやトークンに水料金をチャージし各家庭が公共水道栓や井戸から水を得る事業を展開しています。

筆者は今月カンパラから車で2時間ほどのカユンガのプロジェクトサイトを訪問しました。日本に留学経験があり日本語に堪能なイノセント・ナベンデさんに案内されて水道栓に行ったところ、ちょうど地元のお母さんが小さな子どもを連れて水システムへの申し込みを行うところでした。ナベンデさんはおもむろにリュックからトークンとパソコン

を取り出しました。パソコンでトークンを登録しとりあえずは現金で水料金をチャージ。登録はわずか数分で済みました。お母さんは早速トークンを使って水を汲み大切そうに家に持ち帰りました。後は携帯から電子マネーで料金をチャージできます。Sundaのシステムを利用すればいつでもどこで誰がどれくらい水を使ったかといった情報は全てアプリで管理されます。これにより水道栓の維持管理が行われ、万一不具合があった時もすぐにエンジニアが駆けつけられるというわけです。キヨスク型の公共水道スタンドも試験的に導入されています。こちらは日本の交通カードのようなカードを使用しません。電子決済を用いた小型ガソリンスタンドのような施設でした。1つの公共水道栓からは100から200家庭をカバーすることを想定しているとのこと。この取り組みは、いわば上水のラストデリバリーをすることになります。SDGsの目標にも必ずや貢献することでしょう。



[SUNDA のシステムと協同]



[キヨスク型の公共水道スタンド]

(2) 辻プラスチックの取り組み

辻プラスチックは滋賀県の東近江市に本社がある創業時からプラスチック射出成形を手がけてきた会社です。2000年以降は太陽光発電を足がかりとしてソーラー事業部を立ち上げました。アフリカにも目を向けられこれまでニジェールやセネガルなどで実績を積まれています。同社の特色は ABE イニシアティブ出身の方を積極的に活用していることです。ABE イニシアティブは故・安倍総理が創設した、アフリカの産業人材育成及び日本とアフリカのビジネスを繋ぐ架け橋となる人材の育成を目的とした留学生制度です。日本で学んだ学生は日本とアフリカ双方の事情に土地勘があり良きビジネスパートナーとなる可能性を持つ人材です。辻プラスチックはこれを実践されているわけです。

ウガンダにおいては辻プラスチックが開発した SUGOI という飲料水用の水浄化システムの実証実験を実施しています。同製品はオフグリッドでソーラー対応、濾過フィルターを活用して濁った川の水でも1時間あたり約千リットルの水をろ過生成する機能を有したすぐれものです。膜交換は長期間不要、化学薬品も不使用です。

ウガンダでは巨大な水源でもあるナイル川を始め湿地も多く水資源に恵まれています。これをオフグリッドで浄化できれば現地の実情にあった水対策となるでしょう。

筆者はナカソングラ県で湖の近くで行われている実証実験を見学しました。現在のところ実験は順調であり地元住民もシステムの周りに集まりせつせと水を汲みに来ているのが印象的でした。



[SUGOI 水浄化システム]



[ろ過前(左)とろ過後(右)の水]

なお、鉱研工業、辻プラスチックの取り組みは、それぞれ日本企業の海外進出を支援する経済産業省、滋賀県の補助金を活用した事業です。JICA は今月水関連企業をウガンダに招きスタディーツアーを実施しました。参加した企業は以下のとおりです。日本企業のアフリカの水への取組みの関心の高さと真剣さが伝わるツアーでした。

鉱研工業 株式会社
テラオライテック 株式会社
株式会社 おかもとポンプ
株式会社 ネオス
横河電気 株式会社
株式会社 荏原製作所

株式会社 オプティム
(順不同)

3、NGO 道普請人の活動

このコラムではこれまでもウガンダで活動する日本の NGO について紹介してきました。(2025 年(令和 7 年)2 月、6 月、7 月、12 月号をご覧ください。)

今月筆者はカンパラから北西に車で 2 時間半ほどのナカソンゴラ県で NGO 道普請人の活動を見てきました。

昨年 3 月から始まったこのプロジェクトは、地元住民と県政府の機材を活用した道路補修と気候変動により実に 90%が消失したと言われる森林の緑化対策です。

ナカソンゴラ県では洪水や長期の干魃が頻発し道路が通行不能となっているところが多いのです。地域住民と協力して道路補修の訓練、そして実際の補修を行うのが NGO 道普請人の活動の中核です。道路約 250メートルを補修しました。これによって地域住民三千人以上の学校や病院、市場等へのアクセスが改善しました。また合わせて道路排水を利用した溜め池を整備。干ばつによる家畜の死亡率の減少にも寄与しました。

また、県政府と共同して県営育苗場を整備しました。地元農民主導の植林を実施しています。地元政府が主体的に関わることにより継続的に苗木を供給できるシステムを確立しつつあります。

道普請人の活動は地元の住民の主体性を尊重し地元にある資源を活用して持続可能な事業として育てることに主眼を置いています。筆者が訪問した際にも、このプロジェクトに関わる地元住民の方や地方政府の方が熱心にプロジェクトの意義や今後の方向性を説明していただきました。

ウガンダの道普請人の責任者を務める岩村由香氏はウガンダの経験が長い方です。ウガンダには前述の通り多くの日本の NGO が活動していますが、NGO 連絡協議会を設立し NGO 相互の連絡や協力も手がけています。



[県営育苗場]



[引渡式の様子]

4、laut photo の家族写真プロジェクト

ウガンダの豊かな自然やそこで暮らす人々に魅せられ様々な活動をウガンダで個人的に展開される日本の方も少なくありません。

筆者はそのような日本人の一人である laut photo 梶敬子さんにお目にかかりました。梶さんは写真館を神戸に構えておられる方です。昨年初めてウガンダを訪問した際豊かな農業地帯で暮らす人々の素朴な生活に魅力を感じたとのこと。ウガンダにおいても家族の絆はかけがえのないものです。そこで農家の家族を撮影し写真をご家族にプレゼントするというプロジェクトを思いつかれました。ウガンダではまだ家族写真を撮り家に飾っておく習慣はありません。2月初めから10日ほどかけてカンパラ郊外の農村を周り写真のプロジェクトを実行されました。

カメラとプリンターを持って農村に乗り込んできた日本人を地元の人は初めは何事かと好奇の目を向けていたとのこと。プロジェクトの趣旨を説明するうちに今まで撮ったことのない家族の写真を目の当たりにして徐々に打ち解けていったとのことでした。最後に家族写真を受け取った家族は例外なく笑顔に満ちていたとのこと。

ウガンダの農村は貧困問題を始め、教育や保健医療など多くの課題を抱える地域が少なくありません。そのような中で laut photo の取り組みは家族の絆を深める貴重なプロジェクトになったのではないのでしょうか。



[家族写真プロジェクトの様子]

5、ソロティ、ジンジャの地域中核病院における医療機材整備

保健医療の分野は、ウガンダに対する日本の支援の重点分野の1つです。日本はJICA(ジャイカ)を通じて2000年代からウガンダの地域中核病院医療施設を改善する支援を行ってきました。具体的には、ウガンダ中央地域にあたるムベンデとマサカ、西部地域のホイマ、ポートフォータル、、カバレ北部地域のグル、リラ、アルアの各地域中核病院の施設・機材の整備を進めてきました。このたび、東部地域のソロティとジンジャの地域中核病院への医療機材の整備が整いました。筆者は今月2つの地域中核病院を訪問し、引渡し式を行ってきました。

公共施設である地域中核病院は、地域住民に対して専門的な医療サービスを提供することを目的としていますが医療機材の老朽化や不足により医療サービスの適切な提供が重要な課題となってきました。今回の整備により地域住民への医療サービスの量・質の向上が期待されます。引渡し式では保健省をはじめ多くの医療関係者の他地域行政官や住民、長年保健分野で実地に協力している JICA の専門家も加わり整備を喜ぶとともに今後の施設・機材の有効な活用について確認してきました。



[引渡し式の様子]



[供与された医療機材を説明する看護師]

6、天皇誕生日レセプション

2月18日日本大使公邸において、ウガンダ政府や民間の方、日本の関係者を招いて天皇誕生日レセプションを行いました。

ウガンダ政府からは来賓としてオケロ外務国務大臣●が出席されスピーチを行いました。

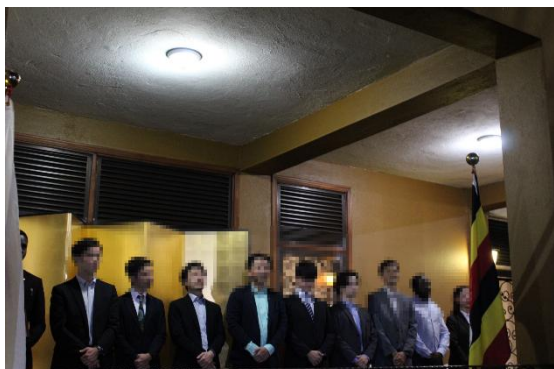


[会場の様子]



[オケロ外務国務大臣と握手]

日本側関係者として JICA のスキームでウガンダを訪問している水事業の関係者の方も参加されました(上記2、ご参照。)。またウガンダで展開している日本車の販売会社が日本車などの展示も行いました。



[水事業関係者の皆様]



[日本車の展示]

またこの機会に以下の4名の団体に公館長表彰を行いました。各団体の活動内容については大使館のホームページをご覧ください。

- ・ウガンダ柔道協会
- ・ウガンダ空手協会
- ・RICCI EVERYDAY
- ・COTS COTS LIMITED



[公館長表彰式]

毎年行われるこの行事が今年も無事開催されました。今年はウガンダからの参加者も少し増え皆さんが交流を深める良い機会ともなったのではないかと思います。

(以上)